

総合学習の発表会

集客力のある店の誘致や

新しいイベントなどを提言

虻 田小学校6年生が、総合学習授業「洞爺湖町の未来」

『まちづくり』の視点から」の学習発表を、2月27日真屋町長や町議会議員らを前にして、議会議場で行いました。

6年1組から2グループ、同2組から2グループのそれぞれ4グループが代表して、町へ提言を発表。



まちづくりの提言を行った総合学習発表会

6年1組の観光グループ1は、「なぜ洞爺湖町は人気ないのか？」と題して、町内イベントの周知が行きわたっていないので、積極的ピーアールの必要性や特産物のホタテ料理の多様なメニュー化、施設を巡るスタンプラリーを提案しました。

同観光グループ2は、「よりよい洞爺湖町にするために」どうするかを考え、減っている観光客を取り戻す方法として、ウチダザリガニの活用を説明し、南警梯の実践例を参考にして釣り大会の開催を提案、また木刀や馬油など外国人が購入するものの品ぞろえについても述べました。

6年2組の観光グループは、「洞爺湖町の活性化」のために、①シャッターがおりている店の活用②ピーアール方法の工夫③外国人の好みそうな店づくりとメニューの研

究④イベントを2日開催にして温泉のホテルに宿泊してもらう⑤家族連れ観光客のために子どもが遊べる場所を設置するなど

の考えを説明しました。同産業グループは、「洞爺湖町に店が少ない」ことへの対策を考えました。その方法として空き店舗を活用し、まちの活性化につなげることを述べ、コインランドリー、カフェなどの活用例を示しました。

町内に来てほしい店舗の聞き取り調査を行い、女性に人気の格安ファッションのチェーン店やスポーツ店の名前が多くあがったことも報告されました。

町長らは、児童らの熱心な発表を聞いて「すでに具体的に進めている対策もあるので、皆さんの意見なども今後参考にしていきたい」と話し、まちの活性化に一層まい進していくことを約束しました。

洞爺高校ととうや小学校 初の交流授業

ミシンでバッグ作り

師役を買って出て実現しました。ミシンが、生徒一人に1台用意され、高校生がマンツーマンでやさしく使い方を指導し、それぞれが選んだデザインのパックを作り上げました。

指導した高校生は「教えることは難しいけど楽しい」と先生役に少しはにかみ、児童は「わかりやすく、丁寧に教えてくれる」とお兄さん、お姉さん先生に信頼を寄せていました。

最後に「学校に行く時辞典など入れたい」「野球道具を入れたい」「出かける時に使いたい」など、一人ひとりが用途を発表し、出来上りに満足した表情を浮かべていました。

洞爺高校ととうや小学校との初の交流授業が2月27、28日の両日行われ、5、6年生19人がミシンを使ってナップザックづくりを行いました。小学校の家庭科のミシン実習単元で、設備が整っている同高校に講師を依頼。ファッションコース選択の2年生12人の生徒が自ら講



いっしょにバッグ作りに励む交流授業